



大和郡山市は東大寺の荘園として古くから開けていたが、豊臣秀長の入城以来城下町として栄え、今もよくその面影をとどめている。市の中心部に位置する紺屋町の中央を流れる水路は、かつては武家屋敷と町家の間を区切る背割り水路であり、内堀と外堀を結ぶ排水路の役割を担っていた。

この歴史的な水路は、近年、家庭雑排水の流入により夏には悪臭を放ち、また雨が降れば浸水被害を出して付近の住民は悩まされていたため、市では水路改修で浸水を防ぐとともに、石積護岸や石橋を用い、市民の憩いの場として散策できる環境づくりが行われた。

### データボード<sup>⑤1</sup>

- ① 奈良県大和郡山市紺屋町
- ② 延長281m
- ③ 石積み護岸、石橋
- ④ 尾鷲産御影石
- ⑤ 地藏盆